

2026年4月15日

株式会社ベクターホールディングス
代表取締役社長 岩井 美和子

通期連結業績予想の修正に関する補足及び今後の展望に係るトピックスについて

当社は、2025年5月及び2026年3月の第三者割当増資により調達した資金を活用し、高性能サーバーの導入とパートナー企業との協業を通じた総合AIインフラ事業の構築を推進しております。

このたび公表いたしました2026年3月期通期連結業績予想の修正に関する補足及び今後の展望に係るトピックスについて、以下のとおりご説明いたします。

【業績予想の修正に関する補足】

1. 売上高について

当社は2026年3月16日付「高性能サーバーレンタル事業の受注に関するお知らせ」にて公表いたしましたとおり、グローバルデジタル企業であるCUE Groupとの間で、年間12億円の演算リソース利用契約（以下、「本契約」といいます。）を締結いたしました。

2026年3月期においては、契約開始日である2026年3月16日から期末までの期間に対応する売上のみを計上しており、その結果、売上高は101百万円から156百万円へ増加しております。

なお、本契約に基づく利用料収入の大半は2026年4月以降となり、2027年3月期における売上計上を見込んでおります。

2. 営業損失について

一方で、営業損失は521百万円から601百万円へ拡大しておりますが、これは主に以下の要因によるものです。

- ① 海外事業者向け展開に伴う営業・広報活動費用
- ② 完全準同型暗号（FHE）技術を活用した高セキュリティ環境構築に関する初期設計費用
- ③ 総合AIインフラ事業の立ち上げに必要なインフラ構築・運用基盤整備・技術検証費用

これらの費用は、主として本契約を契機とした高性能サーバーレンタル事業の立ち上げに伴う初期設置及び環境構築に係るものです。当該サーバーは既に稼働を開始していることから、同一案件において同様の費用が再度発生するものではありません。

これらは将来の収益基盤を構築するための戦略的投資であり、今後の収益拡大に向けた準備段階に位置付けております。

3. 経常損失・当期純損失について

経常損失及び当期純損失の変動については、既存の ICT 事業から総合 AI インフラ企業への転換を進める中で、非コア事業及び資産の整理を実施したことによる影響が含まれております。

【今後の展望に係るトピックス】

1. CUE Group との連携について

CUE Group とは、本契約締結を契機として、当社の AI インフラ事業における中核パートナーとしての連携強化を進めております。

同社創業者兼 CEO である Shi Kan 氏にも当社へご来社いただき、今後の協業に関する具体的な協議を行っております。

今後は、DX・AI・データ活用領域において連携を深化させ、事業成長の加速を図って参ります。

2. 第三者割当増資による調達資金について

Cantor Fitzgerald Europe に対する第三者割当増資により調達した資金については、主に高性能サーバーの追加導入に充当しております。

現在、既に追加の高性能サーバーの発注を行っており、既存の 2 台と合わせて複数台体制となる予定です。これらのサーバーを活用した演算リソースのレンタル提供により、1 台あたり年間約 6 億円規模の売上モデルを前提とした売上創出を狙っております。

本投資は、当社の AI インフラ事業における収益基盤の拡大を目的としたものであり、既存案件と同様のビジネスモデルを横展開することで、継続的な売上成長を図って参ります。

3. 今後について

当社は、総合 AI インフラ企業への転換期にあり、現在、その基盤構築に伴う投資を先行させておりますが、一方で、既に契約済みの大型案件により、今期以降は収益の本格的な立ち上がりが見込まれており、事業構造は大きく転換しつつあります。

当社は、ICT 社会の基盤を支える総合 AI インフラ企業として、持続的な成長と企業価値の向上を実現するとともに、安全で豊かなデジタル社会の発展に貢献して参ります。